ときわぎ国領保育園

保育日記★

６・７月号

平成 27 年５月より、ページをリニューアルしました！「保育日記★」を隔月で更新していきます。
今まで色々な情報を「ときわっこ HP 版」でお伝えしてきましたが、もっと、ときわぎ国領保育園の様子をお伝えしたく、リニューアルすることにしました！保育中に出会った子ども達の素敵な姿や、楽しいエピソードなどをお伝えしていきます。

梅干し作り①

2015.6.17　ぞう青組　５歳児クラス

クラスの中には梅干しが苦手な子もいますが、みんな真剣！
「できたら食べてみようかな～」という子も！
たのしみですね。

５歳児 11 名の子ども達と担任、栄養士で、梅干し作りをしました。

梅はこの日の為に実家の庭からもいできたもので、５日が経ち、ほんのり黄色くなった梅は甘い香りがします♡いよいよ漬けるのに良さそうということで、栄養士に教わりながら作業開始！

作業①　ヘタを取る

ヘタを楊枝で取る作業は、皆大喜び!!ヘタのとれる満足感でいっぱいです。

作業②　梅を洗う

洗う作業では、皆一つ一つ丁寧に撫でるように洗ってくれました。

塩漬けができました。
この後、紫蘇漬け、土用干し…
またレポートしていきます♫

作業③　漬け込み

いよいよ瓶に漬け込む作業は、栄養士さんにお任せし、皆で梅の行く末を見ていました。

「いつ食べられるの？」
「いつすっぱくなるの？」
「いつ赤くなるの？」
「おにぎりにして、たべたい!!」などの言葉が飛び交い、夢が膨らみます。

記事：園長　中村

今は昔より梅干し作りをする家庭も少なくなってきているのではないでしょうか。子ども達にも様々な苦手がありますが、“自分たちで作る”ことで興味を持ち、挑戦しようとする意欲につながることが多いです。実際に子どもからも「酸っぱいの苦手だけどできるの楽しみ」という声も挙がり、梅干しができるまでの様子を観察しています。“豊かな感性”ってこうやって生まれていくんだなぁと保育目標時間できる活動の一つです。

おままごと

2015.6.22　りす組　1 歳児クラス

りす組のおままごとの様子です。
フェルト、お手玉、ビーズなどもおままごとの材料です！

おままごとをしていたＮくん。
「おにく～♫おにく～♪」と言いながらルンルン楽しそうに、お手玉をお肉に見立ててお料理をしていました。保育者が「牛肉ですか？豚肉ですか？」と肉の種類を聞くと…
「にんにく～」と答えてくれました！

言葉の種類がどんどん増えている時期、一緒にいるとこちらもついフッと顔がほころぶような可愛い言葉が出てきて、とても楽しいです♪

記事：杉木

この時期の子ども達は特に、お家での出来事や日常生活で行っていることを、真似したり、見立てたりして、自然と遊びにしています。Ｎくんもきっと普段からお家でお母さんのお料理する姿を興味深く見ていたのでしょう。そこから、食材の名前やお料理の仕草を習得し保育者にも伝えていたのですね。私たち保育者は子どもたちが自分でみて学びえたことを大切にしながら関わるようにしています。

あっそういえば…

2015.6　ぞう青組　５歳児クラス

保育園でお預かり中の子どもがケガをしたり、体調不良となると、看護師が診ることがあります。

５歳児クラスのHくん。事務所の外から担任に「おり先生（看護師）のところに行く！」と元気な声で話しているのが聞こえてきました。聞こえないふりをして待っていると…コンコンとノックして担任に付き添われて事務所に入ってきたHくん。私のデスクの横まで、ゆっくりした歩調で歩いてくると、

「あっそういえば…」とHくん。
「テントウムシ公園でここが痛くなっちゃったんだよね」と自ら私に声をかけてきました。みると小さな小さなすり傷が下あごにできていました。

卒園するまでには、自分の体の様子を自分の言葉で伝えられるようになってほしいな★と思っており、ぞう組（３・４・５歳児クラス）の子は、子ども本人と直接話をするようにしていますが、５歳になると、こんなにちゃんと大人とお話ができるんだなぁと成長を嬉しく思うのと、まるでたまたま通りかかったようなシュチュエーションを演出しながら緊張して話しかけてきてくれたHくんの可愛らしさに微笑ましく感じた出来事でした。

Ｈくんは、私に顎の傷を告げると、もうすでに満足顔。
「傷は小さいからこのままで、Ｈくんなら治せると思うのだけど、どうする？」と聞くと「うん！」と言い、最後に「ありがとう」とお礼をして去っていきました。

記事：望月

ほっこりエピソードですね。ケガをして報告してくる傷、本当に小さな物でも、子どもにとっては不安な事。「おり先生に看てもらう？」の一言で子どもの表情はほっと一安心☆なんてことも多いです。子どもにとって安心できる存在なのですね。看護師は保護者の方からの相談を受けることもあります。

お姉さん・お兄さんになったよ

2015.6　りす組　１歳児クラス

小さな子は、日々成長する姿を見せてくれます。今回は、そんなりす組さんの様子を、お伝えします。

公園で遊んでいる時のこと…
０歳児クラスのひよこ組の赤ちゃんたちが４人乗りバギーに乗ってやってきました。０歳児クラスの保育者がバギーを押して公園を一周しているのを見ていた、MちゃんとＹくん。お手伝いをするように、一緒にやさしくバギーを押してくれました。
去年も担任だった私は、４人乗りバギーにMちゃんやＹくんが乗っていた姿を思い出し、お姉さん、お兄さんになったなぁと、嬉しく感じました★

背中をトントン…zzz…

他の場面では…
散歩先から戻ってきた時のこと、急に眠たくなったＹくん。そんなＹくんを見たKちゃんは、さっと自分の膝を出すとＹくんの頭を乗せ、背中を優しくトントン…

そんな姿に、ほっこりしたのと、優しく気遣える成長にまた、嬉しく思いました★

記事：杉木

日頃から、お父さん・お母さんの愛情を受けて生活している子ども達は、眠い時など特に優しさが安らぎにつながります。
友達が走っているときに転んでしまった時も保育者が「大丈夫？」など声をかけて頭を撫でると同じようにする子ども達…日々優しい心が育っているのですね。

おじいちゃん・おばあちゃんと笹飾り

2015.6 末　りす組　１歳児クラス

りす組は、日頃から園に併設されているデイサービスのおじいちゃん・おばあちゃんと交流をしています。お散歩に行った後立ち寄ったり、雨の日に遊びに行ったり…

６月末に笹飾りを作りに行きました。
おじいちゃん・おばあちゃんは、お星さまの形に切った折り紙を作って

用意してくれていました。子どもたちが、おじいちゃん・おばあちゃんからお星さまをもらって、笹が描かれた模造紙に、ペッタンと貼り付けます。

積極的な子は、お星さまをまだ持っているおじいちゃん・おばあちゃんを見つけては、もらってペッタン、またペッタンと繰り返し貼って楽しそう♪おじいちゃん・おばあちゃんも優しい笑顔を向けてくれます。

1 歳クラスでもこのような、子ども達でも楽しめる形の交流を用意したりしています。来年は、子どもたちが七夕の歌や日頃のわらべ歌を披露したりできるかな？！

記事：片岡

ときわぎでは、0 歳クラスからおじいちゃん・おばあちゃんの所へ訪問し、顔を見せることによって「かわいいね」「またきてね」と声をかけてもらう交流がスタートしています。核家族化の進む今日、世代を越えて子ども達とつながっています。

手洗いのお話を聞いたよ

2015.6.29　ぞう緑組　4 歳児クラス

最後に順番でみんなしっかり手を洗いました。
歌に合わせて隅々まで洗えました！

梅雨の時期、ぞう組（3・4・5 歳児）は、各クラス手洗いのお話を看護師と一緒にしています。

「今日は手洗いの話をするよ」看護師が話し始めると、最初は「なんだろう?!」と観ていた子ども達。
「どんなところにばい菌っているのかなぁ？」
「どんな時に手をきれいにする？」
と問いかけられると、「トイレ！」「ご飯の前!!」など次々に発言していました。

♪あわあわ手あらいの歌♫を聞きながら手の洗い方を確認します。2 歳児クラスから繰り返し聞いてきたこの曲を聴くと、もう自然にみんな手が動きます！

最後は順番に手洗いを実践すると
「ピカピカになったよ！」と保育者に見せる子や、

「ピカピカかなぁ…」と自分の手をじーっとのぞき込む子もいました。

歌を口ずさみながら洗うと、楽しみながら、手のひらだけでなく、指の間、爪、手の甲も洗うことを習慣づけていけます。大人も楽しくできます♪

記事：樽味

小さなころからの繰り返しで習慣づいたのがよく分かりますね。幼児になると“やることの意味”も分かるようになり、より手洗いの大切さを感じるのではないでしょうか。保育目標にもある“生活習慣を身に着ける”や“粘り強い子ども”というフレーズがピッタリ!!子どもの力ってすごいですね。

カルタの読み手はお姉ちゃん

2015.7.6　ぞう赤・緑組　３・４歳児クラス

「Ｍちゃんとれたね」「こんどはＳちゃん早かったね」と声をかけながらカルタの読み手を続けているＮちゃん。

ときわぎ国領保育園は、縦割り保育を行っているので３・４・５歳は一緒に生活しています。

はじめ、赤組（3 歳児）同士がカルタで遊ぼうと席に座りましたが、赤組の子はまだ上手に読み札を読めません。絵札のみで遊んでいたところに緑組（4 歳児）の子が通りかかると、読み札を読まずに遊んでいるのに気が付き「読んであげようか？」と自ら声をかけました。

赤組の子が「うん！」と言い読み札を渡すと、「いくよ～」と声をかけ読み札を読み始め、赤組の子たちが札を取ると次も読み…
自然と会話も生まれ、一緒に楽しんでいました。

進級から２か月が経ち、異年齢の子とも少しずつ関われるようになってきました。年下の子に優しくしている姿を見ると微笑ましく感じます。

記事：樽味

縦割りの保育では、小さい子は大きい子の真似をして積極的に自分の身の回りの事をしたり、自分たちもお兄さん・お姉さんの様になりたいな～という気持ちで見ています。お兄さん・お姉さん達は自然と困っている子を助けてあげようかという気持ちが持てます。かつての自分たちがそうであったように…今度は自分たちがさりげなく手助けをしてくれるようになるのですね。

あかちゃんが寝ています

2015.6　うさぎ組　２歳児クラス

ガガガーッゴゴゴーッッ!!!
うさぎ組の暴走族？？みんな上手に足で蹴ります。

遊んでいたけど、音大丈夫かな？？
あかちゃん、ねてる？
Ｓちゃんがのぞいているのは、０歳クラスです。
いつもそっと覗いて、静かに去っていくＳちゃん。

クラスのみんなが部屋の前のテラスに出ると、毎日「やりたい！」というのは、コンビカー★
テラスは、地面がコンクリートのため『ガガガーッゴゴゴーッッ』と、とても大きな音が出て、保育室内にも響きます。

テラスは横に長く、０歳クラスのひよこ組の前もつながっています。０歳クラスは、時間によってはクラスでお昼寝をしている子もいます。

そこで「赤ちゃんが寝ているときはコンビカーはお休みね」と伝えてみました。最初はよくわからない様子で、すぐ「コンビカーまだ？」という子やコンビカーの前でじっと待つ子も。

そんなやり取りを続けていたある日、いつものようにテラスに出ると、何も言わず、すっとテラスの端まで走りだす子が…しばらくすると戻ってきて
「あかちゃん、ねてた!!」と言い、コンビカーをやりたいと言いださなかったのです♪

他の子も「コンビカーできる？」「あかちゃん、ねてる？」と気にするようになってきました。
「まだねているね。コンビカーうるさいもんね」と子ども達同士で話し合っています。

遊びたい気持ちを我慢して自分より小さな子のことを考えられるようになり、嬉しく思いました。理由を丁寧に伝えていくことで、時間はかかるけれどもしっかり伝わるのですね。

記事：佐藤（亜）

すぐ近くにいる異年齢の子たちの生活や遊びに興味が出て、意識しながら遊ぶ姿に一人ひとりの成長を見ることが出来ます。小さい保育園ならではの子ども達のつながりを嬉しく思います。